

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 1 「**智・徳・体を修め社会に奉仕する**」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- 2 生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸張させ、希望進路の実現を推進する。
- 3 生徒保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- 4 浪商高校創立100周年までに、浪商ブランドを確立する。「**泉州を代表する進学校、大阪を代表するスポーツエリート校**」

### 2 中期的目標

#### 1 生徒個々に応じた学力の向上

- (1) 授業力の向上：コースの特色に応じた授業が展開できるよう工夫していく。
  - ア 「少人数授業」を活かし、「わかる授業」を推進していく。また、授業アンケート等を活用し、「授業力の向上」を図る。
  - イ ICTを活用した授業を積極的に進めていく。令和元年度入学生よりiPadを導入。研究・研修を行い、ICT化を進めていく。
  - ウ 成績不振者に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣を確立させる。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすいですか。」(平成30年度65%)を令和3年には80%以上にする。→達成(80%)**
- (2) 授業にとどまらず様々な場面での学習環境を整備する。
  - ア 漢字検定・英語検定・数学検定の受検対策を行い、目標達成に向けて意欲的に取り組ませる。
  - イ 図書室や学級文庫の利用率を上げ、幅広い知識の習得をめざす。

**\*\*\* 検定の合格率を向上させ、漢字検定・英語検定については卒業までに全員が3級以上取得をめざす。→未達成**
- (3) 生徒の自主的な学習態度を養う。
  - ア 「浪商塾(放課後学習サポート)」をより充実したものにし、自主的な学習につなげていく。
  - イ 「アクティブラーニング」や「協働学習」を推進し、「自ら考え、自ら行動する」生徒を育てる。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「毎日、家庭学習をしていますか。」(平成30年度35%)を令和3年には60%以上にする。→未達成(58%)**

#### 2 生きる力の育成

- (1) 規律ある学校生活を送り、生徒会活動などを通じて自主自立の精神を育てる。
  - ア 「浪中ルール」を徹底し、生徒の規範意識を高めていくとともに、教員の組織的・統一的な指導を行う。
  - イ 挨拶・服装等の指導強化に取り組む。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」(平成30年度84%)を令和3年には90%以上にする。→未達成(88%)**
- (2) 様々な体験活動やボランティア活動を通じて豊かな感性を養う。
  - ア 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、浪商高校でリーダーとなる生徒を育てていく。
  - イ 「国際交流」を通して、文化や習慣の違いを尊重する心を育むとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事(文化祭・体育祭など)に楽しく、積極的に参加していますか。」(平成30年度85%)を令和3年には95%以上にする。→達成(95%)**

**\*\*\* 外国からの訪問を積極的に受け入れ、学期に1回は外国の学生との交流を行う。→コロナ禍のため未達成**
- (3) 新学習指導要領への対応
  - ア 令和2年度からの全面実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行っていく。
  - イ 未来を生きていく力を育むため、カリキュラムマネジメントを確立し、効果的な教育活動を行う。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「授業には積極的に参加していますか。」(平成30年度82%)を令和3年には90%以上にする。→質問から除外**

#### 3 中高一貫教育の推進

- (1) 平成29年度入学生より中高一貫教育を実施。平成30年度より中学校改革を行い、令和3年で4年目となる。6年後の進路を見すえ、計画的継続的教育活動を進め、学習面は言うまでもなく部活動でも生徒の個性を伸ばしすぐれた才能の発見に努め、文武両道教育の一層の充実をめざす。
  - ア 生徒・保護者向けの説明会をタイミングよく行い、納得のいくコース決定を行っていく。
  - イ スクラップアンドビルドの実践。魅力ある浪商中学校実現ために体制を再構築していく。

**\*\*\* 生徒向け学校教育自己診断における「学校に来るのが楽しいですか。」(平成30年度87%)を令和3年には90%以上にする。→未達成(89%)**

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年11月実施分〕	学校評価委員会からの意見
<p>(生徒用)</p> <p>○中期的目標に挙げた項目については、未達成の項目も多いが、概ね目標の数値に近づくことができた。</p> <p>○「先生は教え方に様々な工夫をしていますか。」が、これまで90%を超えることがなかったが、92%となった。1年生については100%である。iPadを導入してから3年が経ち、教員のスキルも少しずつアップしてきたことが数値に表れている。</p> <p>○「授業でわからないところを先生に質問していますか。」が前年度(72%)からマイナス6%(66%)となった。3年生は80%を超えているが、1・2年生の数値が低くなっている。習熟度別授業を行い理解度がアップしたからなのか、単に消極的なのかかわからないので、教科担当に確認をとり丁寧な対応をしていきたい。</p> <p>○「毎日、家庭学習をしていますか。(塾以外)」は、平成30年(35%)から比べると、令和3年度は58%となり20%以上上がった。しかし、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけてほしい思いからすると、まだまだ低い数値である。次年度は、新たな授業支援ツールを導入予定なので、動機づけにしていきたい。</p> <p>○「学校行事(文化祭・体育祭など)に楽しく、積極的に参加していますか。」が前年度(84%)からプラス11%(95%)になった。コロナの影響でできなかった行事が、少しずつできるようになり、今年度は浪商祭(体育の部)を実施できたことが大きい。</p> <p>○「図書室を利用していますか。」が今年も低く(39%)、ここ3年50%を下回る結果になった。コロナの影響で、図書室を利用する機会が減ったことが原因であるが、感染症対策を徹底しそそろ活用を幅を広げていきたい。</p> <p>○「地震や火災などの災害時の避難経路を知っていますか。」が前年度(72%)からマイナス23%(49%)になった。避難訓練を実施する前の回答だったのが原因だと考えられるが、万が一に備えて日常から意識を高めることをしていく必要がある。</p> <p>(保護者用)</p> <p>○「お子さんは学校に行くのが楽しいと言っている。」が前年度(89%)からマイナス10%(79%)になった。特に2年生の数字が低くなっている。</p> <p>○「お子さんは文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加している。」が前年度(90%)からマイナス11%(79%)になった。生徒の数字はプラスになっているが、保護者にその内容をお伝えできていないのが原因か。</p> <p>○「お子さんは学校生活についてよく話をする。」が前年度(65%)からプラス18%(83%)となった。コロナ禍の中、家庭での時間が増えたことが理由なのかどうかかわからないが、とてもいい結果となった。</p> <p>○「お子さんは入学して、また進級して学習活動に取り組む時間が増えた。」が前年度(39%)と同じ低い数値(45%)であったが、ここ数年40%を超えることがなかったのか、少し改善されたのか。1・2年生は50%となっており、この数値を上げていきたい。</p> <p>○「学校は保護者の授業参観や懇談会の機会を適切に設けている。」が全学年で90%を超え、96%となった。コロナ禍の中、生徒の様子を見ていただく機会や直接お話をする機会が減っていた中、感染症対策を徹底し、可能な範囲で実施した結果が数値として表れた。</p>	<p>1. 学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告 「令和3年度を取組内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。</p> <p>2. 第三者評価について 1) めざす学校像を実現するため、「中期的目標」に掲げる「1. 生徒個々に応じた学力の向上」、「2. 生きる力の育成」、「3. 中高一貫教育の推進」を具体的な「重点目標」に設定している。</p> <p>2) 重点目標の設定は、進学とスポーツの2本柱として浪商ブランドを確立させることを基本として、学習活動の充実や部活動成果を第一義にあげている。学習習慣の定着と学力向上のため、「授業力の向上」、「学習環境の整備」等を重点目標に設定している。また、ブランドデザインの「自ら考え、自ら行動する」ことができる生徒を育てるため、「自主自立の精神の育成」や「豊かな感性の育成」等をあげ、中期的目標に沿った具体的な重点目標の設定と取り組みが行われていると評価できる。</p> <p>3) 上記の重点目標の具体的な取組計画・内容ごとに、令和2年度の「学校教育自己診断結果」と令和3年度の「学校教育自己診断結果」を比較し、学校関係者による評価が示されている。その学校関係者による評価と対応して、今年度の特徴、項目別比較、学年別比較、コース別比較、アンケート対象者別比較等、様々な観点から検証を行うとともに項目別の検討課題を抽出し、具体的対策まで明確に示されている。</p> <p>以上の観点から「令和3年度を取組内容及び達成状況」の資料を統括して、貴校の学校評価への取り組みは適切なものであると評価できる。</p> <p>る。</p> <p>【第三者評価】 開催日： 令和4年4月11日(月) 学校関係者評価 令和4年4月13日(水) 学校関係者評価 令和4年8月6日(土) 第三者評価</p> <p>出席者： 大阪体育大学 体育学部 スポーツ教育学科長 曾根純也 大阪体育大学 体育学部 健康スポーツマネジメント学科長 富山浩三 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 元保護者会会長 小林弘輝 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 松田博志 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 福光聖美 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 中村 祥子</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																
1 生徒個々に応じた学力の向上	(1) 授業力の向上	(1)	(1)	(1)																
	ア 「少人数授業」を活かした、「わかる授業」の推進	ア・「授業のめあてと振り返りシート」の徹底 ・「授業アンケート」を実施し、授業力の向上を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすいですか。」 (令和2年度 82%) ⇒90%に	ア・80%/-2% (△) 習熟度別授業を始めて次年度で3年となる。成果の検証を行い、よりいいものにしていきたい。																
	イ ICTの活用	イ・可能なところから教室の整備を行い、ICTが活用しやすい環境を作っていく。 ・iPadを積極的に活用する。また、定期的な研修を行う。	イ・生徒向け学校教育自己診断における「先生は教え方に様々な工夫をしていますか。」 (令和2年 86%) ⇒90%に	イ・92%/+6% (○) 活用が広がってきたこともあり数字が上がってきた。次年度は新たな授業ツールとICTツールを導入予定なので、さらなる活躍が期待できる。																
	ウ 家庭学習習慣の確立	ウ・定期考査後の学習管理の徹底を図り、成績不振者にはきめ細かいサポートを行っていく。 ・iPadや学習コンテンツを家庭学習に活かしていく。	ウ・生徒向け学校教育自己診断における「毎日、家庭学習をしていますか。(塾以外)」 (令和2年度 59%) ⇒65%に	ウ・58%/-1% (△) まだまだ低い数値であるが、iPadや学習コンテンツの利用により少しずつ上昇している。																
	(2) 様々な場面での学習環境の整備	(2)	(2)	(2)																
	ア 各種検定試験に向けて積極的な取組み	ア・検定試験合格率アップのため、授業やステップアップ講座(放課後)で対策を行う。	ア・中学卒業までに全員英語検定3級以上合格させる。 ・グローバル進学コースでは卒業までに英語検定準2級合格をめざす。 ・日々の学習が検定試験の結果につながるように、授業内容や課題を工夫する。	ア・英語検定3級については、中学3年生20人中10人が合格した。全員合格の目標はまだ遠いが、少しずつ合格者は増えてきている。(×)																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>漢検</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>4級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	漢検	準2級	3級	4級	1年生	0	1	2	2年生	0	4	8	3年生	0	2	1
	漢検	準2級	3級	4級																
	1年生	0	1	2																
	2年生	0	4	8																
3年生	0	2	1																	
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>英検</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>4級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	英検	準2級	3級	4級	1年生	0	2	5	2年生	0	4	6	3年生	0	10	2	
英検	準2級	3級	4級																	
1年生	0	2	5																	
2年生	0	4	6																	
3年生	0	10	2																	
イ 読書活動の推進	イ・図書室の貸出冊数と授業利用時間をアップさせる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>535冊</td> <td>464冊</td> </tr> <tr> <td>授業利用</td> <td>36時間</td> <td>34時間</td> </tr> </tbody> </table>		令和元年度	令和2年度	貸出冊数	535冊	464冊	授業利用	36時間	34時間	イ・図書室の貸出冊数と授業利用時間 令和3年度の目標数値 貸出冊数 ⇒500冊に 授業利用時間 ⇒50時間に	イ・令和3年度の数値 貸出冊数 621冊/+157冊 (○) 授業利用時間 55時間/+21時間 (○) コロナも少し落ち着き、大幅に増加した。さらなる活性化に期待したい。								
	令和元年度	令和2年度																		
貸出冊数	535冊	464冊																		
授業利用	36時間	34時間																		
(3) 生徒の自主的な学習態度を養う	(3)	(3)	(3)																	
ア 「浪商塾(放課後学習サポート)」の充実	ア・呼び出し基準・実施方法・保護者への連絡などを見直し、個々に応じた対応をしていく。	ア・主に各教科30点以下の生徒を指名しているが、普段の授業での理解度を上げ、指名される人数を減らしていく。	ア・まだまだ学習方法がわからない生徒もいるので、習熟度別授業をもっと活かしていかなければならない。(△)																	
イ 「アクティブラーニング」や「協働学習」の推進	イ・「アクティブラーニング」や「協働学習」を効果的に行い、「自ら考え、自ら行動する」生徒を育てていく。	イ・「総合的な学習の時間」だけではなく各教科でもみんなで「考える」時間を増やしていく。	イ・各行事の振り返り等においてプレゼン資料を作成し発表する機会を増やしている。(△)																	

<p>2 生きる力の育成</p>	<p>(1) 自主自立の精神の育成</p> <p>ア 生徒の規範意識の向上と、教員の組織的・統一的な指導</p> <p>イ 挨拶・服装などの指導強化</p> <p>(2) 豊かな感性の育成</p> <p>ア 生徒の自己有用感を醸成し、浪商高校でリーダーとなる生徒を育成</p> <p>イ 「国際交流」を行い文化や習慣の違いを尊重する心を育む</p> <p>(3) 新学習指導要領への対応</p> <p>ア 令和3(2021)年度の全面実施に向けて</p> <p>イ カリキュラムマネジメントの確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「浪中ルール」を徹底し、生徒・保護者・教員が共有することで安心安全な学校を作っていく。 ・情報交換を密に行い、問題事象を早期発見・対応していく。</p> <p>イ・服装の乱れやその他の違反は特にないが、挨拶に関してはまだ積極的にできていない生徒がいるので、習慣化できるようにする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒会活動を充実させる。委員会活動を計画的に行い、生徒の主体性を養う。</p> <p>イ・コロナ禍の中、訪問の依頼もない状況である。オンラインでの交流など、可能な範囲で実施していく。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教員一人一人の力量を高めるために研修の機会を設け、必要な環境を整備していく。</p> <p>イ・教科横断型授業の実践とPDCAサイクルの確立のため教育課程の編成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」 (令和2年度92%) ⇒100%に</p> <p>イ・教室や集会などでの声かけや、挨拶運動などを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・月に1回、生徒会委員会を開く。</p> <p>イ・まだ対面は厳しい状況なので、オンラインを用いて、交流の機会を設ける。</p> <p>(3)</p> <p>ア・探究活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」を行う。</p> <p>イ・教員が理解を深めるため、研修等を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・88%/4%(△) 全校集会ができなくなり、全体で話をする機会が減った。少しずつ機会を増やし、統一した指導をしていきたい。</p> <p>イ・挨拶運動は実施できなかったが、自分から挨拶できる生徒は増えてきた。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・定期的に開くことができた(○) 少しずつ自主的な活動も増えてきている。</p> <p>イ・2回オンラインでの交流を行うことができた。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・ICT機器も活用し、各教科で主体的な学びが増えてきた。より深いものにしていきたい。(△)</p> <p>イ・学校内での実施ができなかった。(×)</p>
<p>3 中高一貫教育の推進</p>	<p>(1) 中高一貫教育の充実と発展</p> <p>ア 生徒・保護者向け内部進学説明会の充実</p> <p>イ 魅力ある浪商中学校の実現するために体制を再構築</p>	<p>(1)</p> <p>ア・懇談会や内部進学説明会の実施のタイミングを見直す。 ・浪商高等学校5つのコースの特長を理解してもらい、生徒に合ったコース選択をしていく。</p> <p>イ・教科指導・生活指導・部活動指導など、現状に合った指導を行うため、スクラップアンドビルドを実践していく。 ・中高大の連携をより強いものにし、また教育資源を活用し、中学校の特色をしっかりと出していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・内部進学者100%をめざす。 (令和2年度83%)</p> <p>イ・令和4年度はコース制を廃止し、1クラスで募集することになった。「グローバル進学コース」と「スポーツ進学コース」の取り組みを整理し、より魅力的な教育内容を作る。 ・入試方式の検証を行い、現状に合ったものにしていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・内部進学者95%/+12%(○) 100%とはいかなかったが、入学時から浪商高等学校の魅力伝えていたおかげで、かなり高い進学率となった。引き続き、生徒・保護者へタイミングよく丁寧な説明を行っていきたい。</p> <p>イ・制限のある中、「オンライン国際交流」や高大連携の「体力測定」など、特色のある取り組みを実施することができたので、これまでの行事を見直し、よりいいかたちにしていきたい(△)</p>